SC Tadoku Books

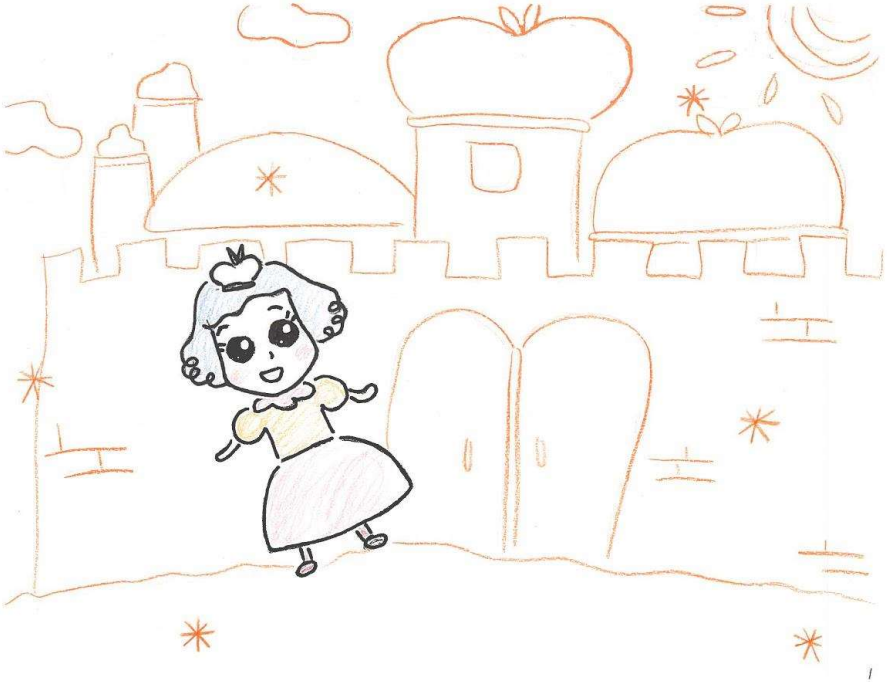
レベル 2

ぷりんせすものがたり

プリンセス物語

げんあん　さくが　じー　みんひー
原案、作画：ジー・ミンヒー

ぶん　へんしゅう　すがわらひろこ
文、編集：菅原浩子



むかし、あるところに
お姫様(ひめさま)がいました。
お姫様(ひめさま)はきれいな物(もの)が大好(だいす)き
でした。

この物語のイラストと原作は、 USC 2013 年秋学期 Extensive Reading in Japanese II のクラスのジー・ミンヒーさんの作品です。

SC Tadoku Book series are created by the Japanese instructors in Southern California. The project is sponsored by USC Department of East Asian Languages and Cultures and USC East Asian Studies Center.

2

ある日、お姫様はお城の高いところに上りました。

一番上の部屋のドアが開いていました。

でも、部屋の中には誰もいませんでした。

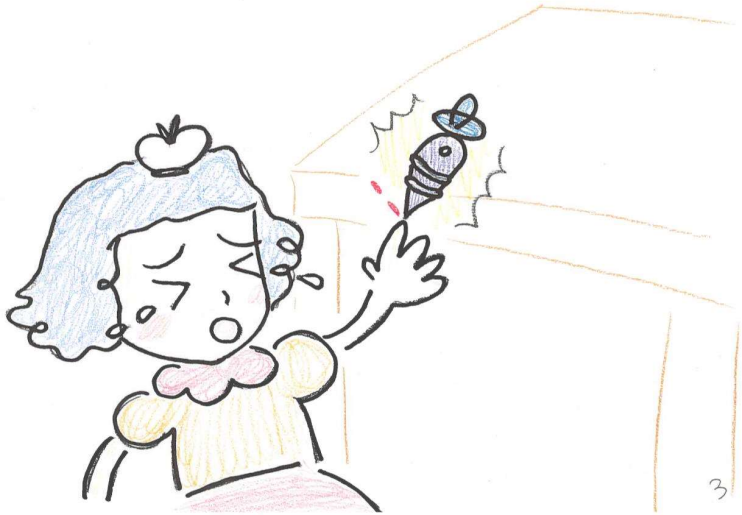
お姫様は部屋に入りました。

そして、きれいなナイフを見つけました。

「わ～、きれい！」

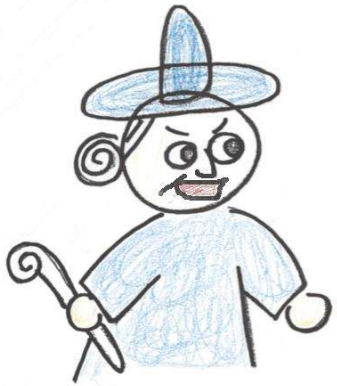
その後、二人は結婚して、

いつまでも幸せに暮らしました。



「あっ、痛い！」
お姫様はナイフで手を切りました。
お姫様がナイフを落としたので、
ナイフがだめになりました。

お姫様を見つけて王子は喜びました。
お姫様も王子にまた会えてとても喜びました。



「どうしてここにいるんだ！
何をした！」
お姫様とナイフを見て魔女が大きい声で言いました。

ここは魔女の部屋でした。
魔女が部屋に帰ってきたのです。
ナイフは魔女の大切な物でした。

お姫様もガラスの靴を履きました。

このお姫様だけ、ガラスの靴が履けました。

5

魔女はとても怒って、お姫様に魔法を使いました。

魔法でお姫様は五百年間眠りました。

20

ある日お姫様は町に出かけました。

町の中にたくさんポスターがありました。

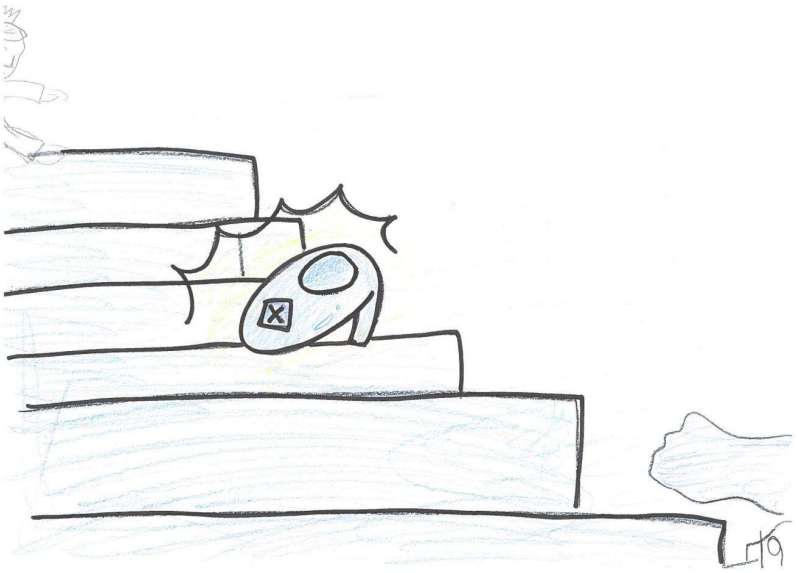
「これは誰の靴ですか」

町の女の人たちがガラスの靴を履きました。でも、靴は小さかったです。

五百年後、お姫様は起きました。

でも、お父さんもお母さんもいません。

お姫様の家もありません。



「お姫様、待って！」

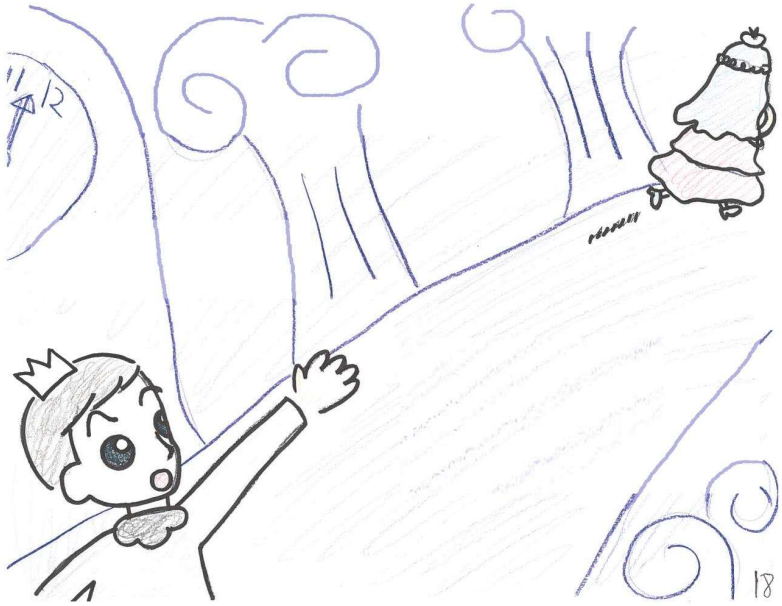
王子はお姫様の後を追いかけました。

お姫様はもうどこにもいませんでした。

でも、お城の階段に、お姫様のガラスの靴が落ちていました。

お姫様は一人で森の中をずっと歩きました。

森の中に大きい家がありました。



時計を見たらもう十一時五十分になっていました。

もうすぐ十二時です。

「私はもう帰らなければいけません」

お姫様は急いでお城から出て行きました。

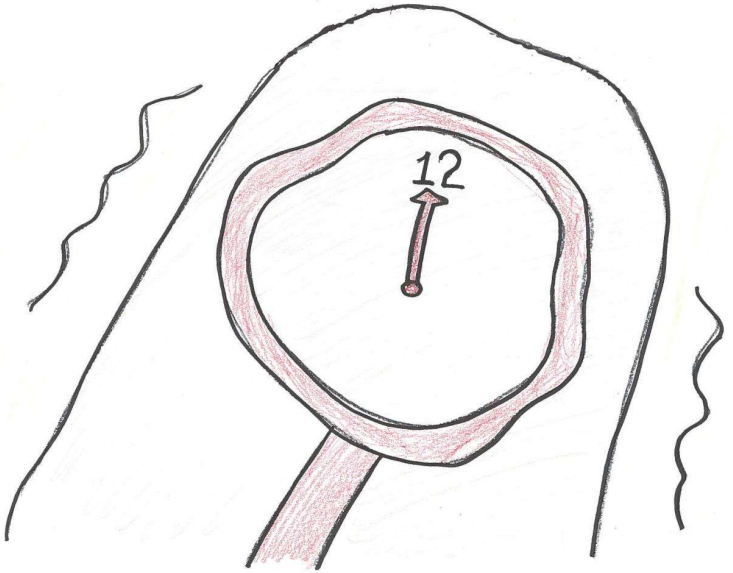
その家には七人の小人が住んでいました。
七人の小人はお姫様がかわいそうだと思いました。
「きれいなお姫様、どこから来たんですか」
「私は家がありません。家族もいません」
「お姫様、今日から私たちといっしょにこの家に住みましょう」
「小人さん、どうもありがとう」
お姫様はご飯を作ったり洗濯をしたりして、小人の家の仕事を手伝いました。
お姫様と七人の小人は楽しく暮らしました。

お姫様はお城のパーティーに行きました。
ハンサムな王子はきれいなお姫様を見て、大好きになりました。
そして二人は楽しくダンスをしました。

9

ある日、小人が仕事に行っている時に、魔女が家に来ました。

お姫様はびっくりしました。

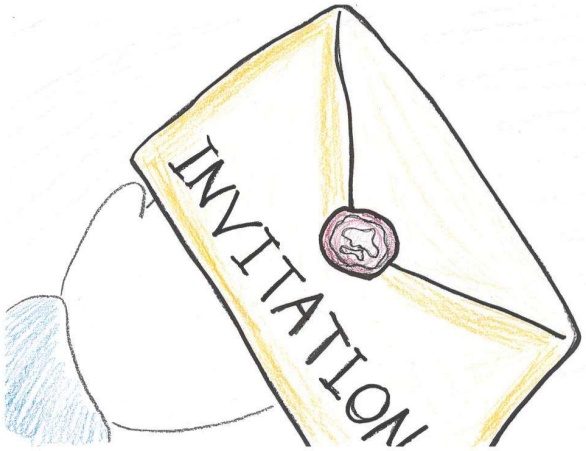


16

「まあすごい。どうもありがとう！」お姫様が言いました。

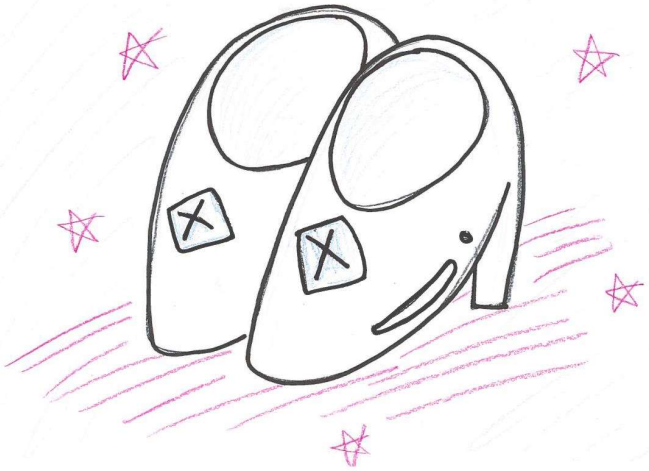
「でも、この魔法は夜十二時には終わってしまう。その前に家に帰らなきゃいけないよ」

魔女が言いました。



魔女はお姫様に言いました。

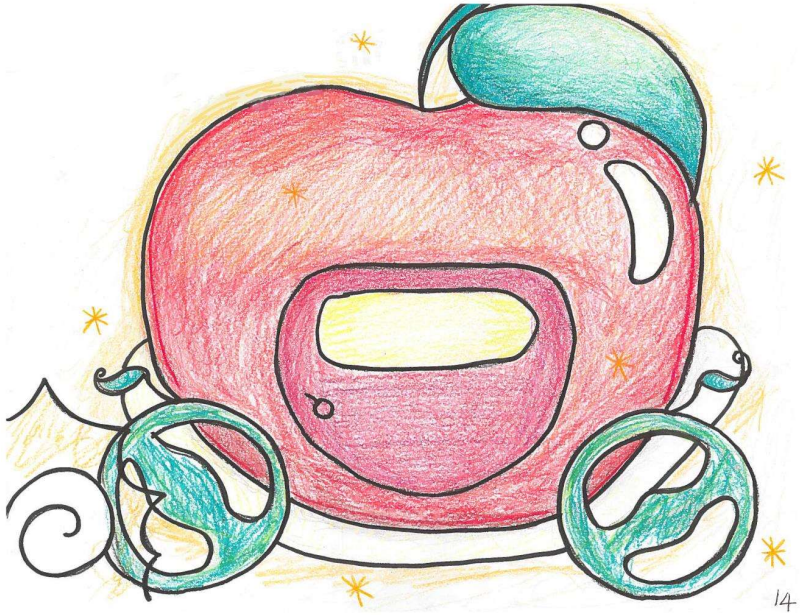
「あの時はあんなに怒ってごめんなさい。
今晩お城で大きいパーティーがあるよ。
パーティーに行きたい？」



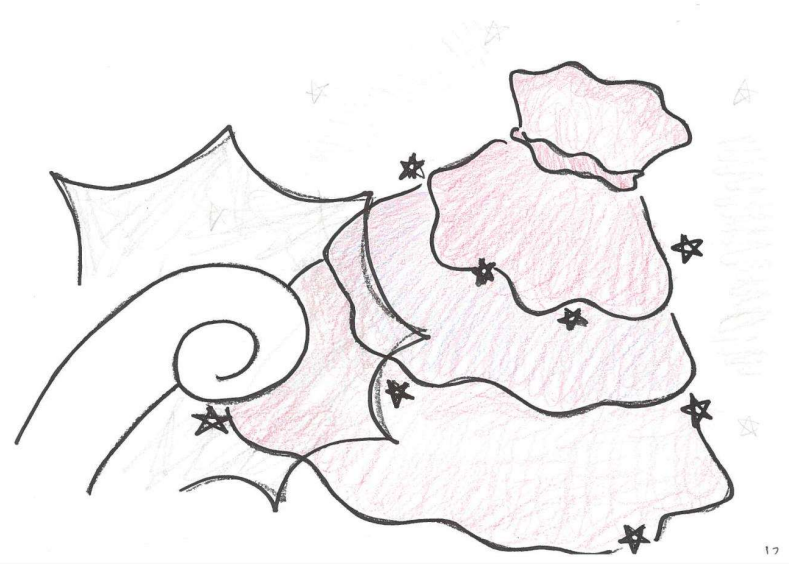
最後に、お姫様の靴をピカピカの
ガラスの靴にしました。

「まあ、ありがとう。
でも、私にはドレスも馬車もきれいな
靴もないんです」
お姫様が言いました。

すると魔女は、
「大丈夫。私が魔法でドレスも馬車も
靴も出してあげるよ」と言いました。



それから赤いりんごを大きくてきれ
いな馬車にしました。



まず魔女は魔法できれいなドレスを作りました。

次に魔法でうさぎを立派な馬にしました。